



故きを温ねて、新しきを知る  
～葵学園のあしあと～

## 預かり保育とサッカー

平成11年4月から葵学園は二つの幼稚園で預かり保育事業を始めます。当時は、保護者の働き方の違いに合わせた幼稚園づくりは社会的にも、経営的にも避けて通れないものでした。

そこで葵学園は、つつじが丘幼稚園と帯広の森幼稚園で、月曜日から金曜日まで通常保育終了後に「預かり保育」を始めることとしたのでした。

お子さんたちを午後5時まで預かることにしたのです。水曜日は通常保育が風までだったので、預かり保育を利用する子どもたちは弁当持参の登園でした。

この保育料は月7,000円でした。この預かり保育事業は、その後利用する子どもたちが増え続けます。正に、幼稚園のあり方が少しずつ変化し始めるのでした。

学校法人帯広葵学園  
理事長 上野敏郎

もう一つ葵学園では、新しい取り組みを始めていました。それは、サッカーです。

理事長の私自身が十勝少年サッカーに長年関わってきたこともあり、どうにかして幼稚園児にもサッカーを広めることができたいかと考えてきました。

二、三年前、幼児サッカーに熱心な東京の多摩平幼稚園を知ったことがきっかけでもありました。

そして葵学園も「サッカーで体と心を育てる」ことはできないかを検討するようになっていきます。

サッカーに求めたものは

- ① 集団で話しているときに人の話をよく聞いて理解する。
- ② 自分で考える。
- ③ 自分の意見を集団の中で発表する。

この三つでした。

子どもに必要なことは  
すべて **児童憲章** の中にあります

## 児童憲章

第十條  
すべての児童は、  
愛情・信頼・放任  
その他不当な取扱  
からまもられたい。  
あつちを大切に  
児童は速に  
保護指導されたい。

All the children are to be protected from ill treatment, harsh treatment, noncompassionate and other unreasonable treatments. These children who have made a mistake are to be protected and guided properly.

